

第192回沖縄県都市計画審議会(令和7年度第3回)

議事概要

- 1 開催日時 令和8年2月9日(月) 午後1時30分～午後2時30分
- 2 開催場所 沖縄県市町村自治会館 2階ホール
- 3 出席委員 池田孝之、神谷大介、伊藤早苗、謝花喜一郎、大城真依子、野口真理
(敬称略) 山城一美(Web参加)、奥村徳仁、渡邊泰輔(代理:親川和人)、山本大志、
本村龍平、山内敏雄(代理:丸谷洋之)、佐喜眞淳(欠席)、新垣光栄、
宮里洋史、赤嶺奈津江

4 議 事

沖縄県決定案件

議案第1号: 那覇広域都市計画公園の変更「5・5・那5号 首里城公園」

議案第2号: 那覇広域都市計画下水道の変更「中部第一流域下水道」

5 議事の概要

沖縄県決定案件: 議案第1号及び議案第2号

ア 事務局が資料に基づき説明を行った。

イ 委員から次のような発言があり、事務局が次のように応答した。

委員発言要旨	事務局応答要旨
・首里城公園の今回の変更区域面積は0.03haの増となっており、変更前の面積が17.9haに対して、変更後が18.0haとなっているが、数字が合っていない理由は何か。	・実際の変更前の面積は17.94haであるが、規定上小数点第1位まで表現するため、今回の増となる面積を加えて四捨五入した結果18.0haとなる。
・下水道の変更について、埼玉県八潮市の件とか色々な問題がある中で、良いことだと思うが、どういう優先順位で2条化を図っていくのか。	・下水道の点検方法や改修時期等をまとめたストックマネジメント計画に基づき、老朽化状況や下水道利用人口の多さなどを考慮して2条化を検討している。 現時点で2条化を予定しているのは本区間のみだが、今後はストックマネジメント計画に基づき点検等を行い、2条化を検討していく予定である。

<p>・2条化された後の切り替えなど、運用方法を確認したい。</p>	<p>・2本の管を交互に使用する予定である。切り替えのタイミングは、運用上の問題などを考慮して今後検討していく。</p>
<p>・浦添側で地盤高から3m、那覇側で7mの深さに埋設する管を布設する際に、不発弾探査の実施方法はどのように考えているか。</p> <p>・戦時中は今の地盤高ではなく、1m～2mであった可能性もあるため、しっかり確認しながら安全に工事を進めて頂きたい。</p>	<p>・今回は深いところで7mの位置に管を埋設予定で、その位置まで不発弾が埋没されている可能性は低いと考えているが、安全に工事が進められるよう検討していく。</p>
<p>・管渠を埋める深さについて、浦添側で3m、河川区間で7m、那覇側で7mとなっており、また自然流下区間で3～4m程度とあるが、一旦7mまで潜ってから3～4mのところまで高くなるということか。</p>	<p>・7mの箇所が圧送区間、そこから立坑で上がり、3～4mの区間が自然流下とする計画である。</p>

6 議事結果

沖縄県決定に関する案件2件について、原案のとおり可決した。

7 報告事項

都市交通マスタープランの策定及び

沖縄本島中南部都市圏域マスタープラン（仮称）の策定について

ア 事務局が資料に基づき説明を行った。

イ 委員から次のような発言があり、事務局が次のように応答した。

委員発言要旨	事務局応答要旨
<p>・このパーソントリップ調査の対象は住民だけで観光客は入っていないということか。</p>	<p>・パーソントリップ調査対象は住民である。参考として、沖縄総合事務局で作成された観光のODなど可能な範囲でデータを収集し、シミュレーション等で影響度合いなどを確認している。</p>

<p>・「幹の交通」で専用空間を走行するというのは、鉄軌道等を想定しているのか。</p> <p>・新聞等によると本島中南部の激しい交通渋滞を緩和するために、県は交通部など新たな組織編制を検討しているのか。また、今回のマスタープランにどのような形で位置付けて、沖縄県の交通渋滞緩和に取り組んでいくのか、現時点での考えを示してほしい。</p>	<p>・現状の道路においてバイパス道路が整備されることにより、現道部分の交通需要が若干低下する。そのタイミングでバスや軌道系の物に現道の交通空間の再配分を検討していくという考え方である。鉄軌道も県で検討している施策の一つなので、タイミングを見て企画部の方で検討されるものと考えている。</p> <p>・次世代交通ビジョンおきなわは、どのような生活がしたいか、将来的にどのような交通が必要なのかなどの県民の意見を取り入れてバックキャスト型の構想を企画部において進めている。</p> <p>・一方、都市交通マスタープランは土木計画学に基づき定量的に積み上げ、データ分析等によりエビデンスを備えた20年後の計画を位置付けるものである。</p> <p>・その二つをどのように結びつけるのかを都市交通戦略として今後2年間の中で検討し、県民の生活と足元にある事業を整理しながら、コンパクト+ネットワークの具体的な施策を策定していく。</p> <p>・組織の改編により都市計画・モノレール課の交通マスタープランのメンバーが企画部に移る事になっており、企画部における組織の中で連携を強めて策定していく段取りである。</p>
<p>・「幹の交通」部分にモノレール、基幹バスがあるのになぜ鉄軌道がないのか。これは土木とか企画のレベルではなく、県全体でしっかり計画に落とし込むことに意義があ</p>	<p>・沖縄県の鉄軌道計画は那覇・名護を1時間で結ぶという、策定が進められている。一方で、今回の交通マスタープランについては、パーソントリップ調査に基づく中南部都市</p>

<p> ると思っており、お互いで話し合いながら しっかり取り組んでもらいたい。また、人口 密度が高い沖縄県で公共交通が赤字により 機能しないのは長年の政策の失敗だと考え ており、その点からも土木、企画で一致した 考えの下で政策を進めてほしい。 </p>	<p> 圏の都市構造、都市交通の在り方を示すもの となっている。 ・今後検討される交通戦略等の具体的な計 画では整合が図られることになるが、鉄軌道 など具体的なシステムを示すものではなく、 交通の需要等から方向性を示すものである ため、鉄軌道という記載が無いとご理解頂き たい。また、部局間の連携を強化するために 組織の改編がされるものと理解している。 </p>
---	---

8 会議の公開・非公開の別 公開

令和8年2月25日

土木建築部 都市計画・モノレール課